Course number		U-LAS70 10001 SJ50										
	ILAS Schillar .Students Academic					ame	, job titie,	Graduate School of Education Associate Professor,SATO MACHI				
Group	Semina	inars in Liberal Arts and Sciences				ımbe	er of credits	2 Number weekly time blo			1	
Class style	ss style seminar (Face-to-face course) Year/se		ear/seme	nesters 2025 • First			semester Quota (Freshma		ı n) 1	0 (10)		
Target year	Mainly 1st year students Eligible studen				nts	For all majors				Days and Deriods Tue.5		5
Classroom	21, Yoshida-South Campus Bldg. No. 1							Lar ins	nguage of struction Japanese			
Keyword	高等教育学関連 / 学生の学問の自由 / 学問的誠実性 / 大学での学び											

[Overview and purpose of the course]

京都大学は「自由な学風」があると言われていますが,みなさんの学ぶ自由はどのようになっているのでしょうか。本セミナーでは,大学での学びが不自由になってきていることに警鐘をならすブルース・マクファーレン著Freedom to Learn(学ぶ自由)の議論を中心に,学生の学問の自由について考えることを目的とします。

セミナーでは、大学を取り巻く環境の変化について簡単な講義をした上で、Freedom to Learnから何章かを読んでいきます。そして日本の大学における学習に関連する報道や論文、随筆などを参考にしつつ、大学における学生の学びの自由について議論します。最後には自分自身の考えをレポートとしてまとめます。これからどのように大学を使いこなし、学部生活を過ごすのかを考えるきっかけとなることを目指します。

[Course objectives]

- ・大学教育を取り巻く環境について理解する
- ・大学教育の仕組みについて理解する
- ・英語文献の読み方を身につける
- ・知見の使い方を身につける
- ・基本的なレポートの書き方を身につける

[Course schedule and contents)]

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 大学とはどのような場所か
- |第3回 環境変化と大学の変容
- 第4回 Freedom to Learnの第1章
- 第5回 Freedom to Learnの第2章
- 第6回 Freedom to Learnの第3章
- 第7回 Freedom to Learnの第4章
- 第8回 ディスカッション
- 第9回 先行研究の読み方,使い方
- |第10回 様々な大学論
- |第11回 日本の大学について考える
- 第12回 発表

ILASセミナー : 大学生の学びの自由について考える(2)
第14回 発表 第15回 フィードバック
[Course requirements]
None
[Evaluation methods and policy]
学習活動への参加(30%)授業での発表(30%)レポート(40%)による。
[Textbooks]
Instructed during class リーディング課題は事前にPandAにアップします。
[References, etc.]
(References, etc.) Macfarlane, B 『Freedom to Learn』(Routledge, 2017) 松村圭一郎 『これからの大学』(春秋社,2019)
[Study outside of class (preparation and review)]
リーディングの課題がある場合には必ず読んで参加すること
[Other information (office hours, etc.)]
特別なオフィスアワーは設けていません。メールでアポを取ってください。
[Essential courses]